



きがいの 広場

ひろば



一般質問ってなに？.....②

令和7年度決算認定に対する討論.....⑩

委員会活動報告.....⑮

会派活動報告.....⑮

全世代型サロンでランチをする
こどもたち

大府市議会ウェブサイト



一般質問ってなに？



おぶちゃん

大府市民の皆さん、こんにちは！
大府市公式マスコットキャラクターの「おぶちゃん」です！
今日は「議会だより」に掲載されている
「一般質問」について
わかりやすくご紹介します。

皆さんの「声」や「アイデア」を
議員が市政へ届けるんだよ！

日々の暮らしの中で、こんなことはありませんか？

通学路の
安全対策を
してほしい



公園の設備を
新しくして
ほしい



子育て支援を
もっと充実
してほしい



地域のイベントや
交流の場を
増やしてほしい



災害に備えた
まちづくりを
進めてほしい



市民の皆さんの「声」や「アイデア」を、皆さんの代表として
市に届けるのも、「市議会議員」の大事な役割です。
議員が本会議場で市長などに対し、市の考え方や今後の方針を
直接確認したり、必要な取組を提案するための機会。
それが「一般質問」です。



「議会だより」には、
議員と市役所側との
やりとりも掲載されています。
ぜひご覧ください！



一般質問で取り上げられるテーマの例

子育て



教育



福祉



公園



防災



産業振興



都市計画



一般質問

(11人) ※正副議長は一般質問を行わない慣例になっています。



併答 防災訓練や情報発信を継続して行うことに加え、多様な手法により、それぞれの立場に応じた働き掛けを行うことが重要である。小学生対象の地域防災スクール事業や、中学生対象の防災講演会を実施し、こどもを通じて家庭へ防災意識を広げる取組も進めている。

今後も、より幅広い市民に防災意識を定着させるため、過去の災害事例を丁寧に説明するなど、周知啓発していく。

質問 どのように市民の防災意識を更に高めていく考えか



災害に強いまちづくりについて

加茂 康治 議員



質問 防災対策への補助制度の導入及び感震ブレイカーの普及促進をどう進めていく考えか

併答 感震ブレイカーを重要な防災対策の一つと位置付け、地域防災計画への反映を進めるとともに、市民への普及啓発に向けた補助制度の創設を検討していく。



▲感震ブレイカー
(コンセントタイプの例)
(出典:消防庁ウェブサイト)

質問 災害時の入浴環境の確保をどう考えているか

併答 避難生活が長期化するほど、入浴機会の確保の必要性は高まるものと考えている。今後は、国や他自治体の先進的な取組も参考にしながら、生活用水の確保とあわせて、入浴環境の整備の在り方を研究していく。



中高生や若者の居場所となる拠点づくりと自立支援について

久永 和枝 議員



質問 市役所6階で行っている中高生サロンについて、今後どのように継続、展開していく考えか

併答 令和7年6月から14回開催し、延べ652人の利用があり、中高生の居場所として一定の役割を果たしている。利用者からも、友人と会話ができる、一人でも勉強ができる、居場所として自由にくつろげるなど、評価の声がある。

今後も、運営団体と連携しながら、引き続き実施していく。

質問 こども幸齢者交流センターに専門職員を配置し、中高生が夜間も利用できる施設にできない理由は何か

併答 本市は、市役所や夜間利用可能な公民館、アロウブの図書館など、地域の中にある公共空間を中高生や若者の居場所として位置付けている。既存の公共施設を十分に活用すべき

質問 夜間など、公民館の空いている部屋を日常的に開放し、中高生が集える環境を整えていく考えはあるか

併答 公民館利用は、原則として団体登録をした上で、予約をして利用する施設である。団体登録が不要な例として、月2回のホール開放や、図書室で実施する「まなスポット」があり、特に「まなスポット」では混雑時は空いている部屋を活用するなど、弾力的な運用も行っている。そのため、中高生が自由に利用できる居場所として日常的に開放する考えはない。





インフラ老朽化対策と 予防保全について

柴崎 智子 議員



質問 社会インフラの点検、修繕、更新、耐震化等の優先順位決定の基準はどのような

并答 道路については、「大府市舗装修繕計画」に基づき、

1級・2級市道を対象として、5年に一度、路面性状調査を実施し、確認した路面の損傷状況から緊急性や市民生活への影響を勘案し、計画的に修繕を進めている。

橋梁については、「大府市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、本市が管理する橋梁及び歩道橋の全てを対象に、5年に一度のサイクルで計画的に点検を実施している。耐震化については、対策が必要な24橋全ての対応が完了している。

質問 上下水道管路の老朽化対策と耐震化についてはどうか

并答 上下水道管路は、点検・調査の結果や維持管理の状況を踏まえ、管路の老朽化の程度

や、事故等が発生した場合の市民生活への影響や重要度などを総合的に評価し、修繕・更新の優先順位を定め、計画的に老朽化対策を進めている。

耐震化は、災害対応の拠点である避難所や医療機関などへの給排水機能を確保するため、重点的に整備を進めており、施設に接続する管路の耐震化の状況は、令和6年度末時点で上水道が96%、下水道が100%と、いずれも全国平均を大きく上回る水準となっている。

質問 路面下空洞調査の必要性についての認識はどうか

并答 道路陥没の未然防止と道路利用者の安全確保の観点から、有効な手法の一つであると考えながら、実施に当たっては、国の見解を注視し、調査方法に関する技術革新や他市町の事例も踏まえながら、今後も調査研究を進めていく。



大府市の持続的な発展に向けた 土地活用について

蟹江 陸孝 議員



質問 桜木町のゴルフ場跡地について、今後の土地活用の動向をどのように把握し、まちづくりの観点から、どのように対応していく考えなのか

并答 桜木町のゴルフ場跡地は、約13haに及ぶ一団の土地であり、将来のまちづくりに大きな可能性を持つものと認識している。そのため、当該跡地を含む区域について、将来を見据え、

周辺環境との調和に配慮しつつ、秩序ある土地利用を図る観点から、本年12月に改訂予定の「都市計画マスタープラン」において、住居系を基本とした検討を進めている。

さらに、市全体の公園配置とのバランスにも配慮しながら、地域の魅力向上や活性化につながる特色ある公園の整備を検討し、新たな世代に選ばれ、住み続けたいと思ってもらえるまちづくりにつなげていく。

質問 桜木町のゴルフ場跡地について、土地活用に伴う交通量の増加や学校等を含む周辺環境への影響をどのように整理し、対応を検討しているか

并答 大規模な開発工事が長期間にわたる場合には、工事車両の通行などにより、近隣住民の生活環境や児童生徒の登下校時の安全に影響が生じることも考えられる。

このため、関係法令等に基づき手続や事前協議の段階から、工事車両の通行経路や時間帯、必要な安全対策などについて、事業者と調整していく。

また、近隣住民等への丁寧な説明や適切な対応が図られるよう、事業者に働き掛け、周辺への影響をできる限り抑えられるよう努めていく。





問 学校開放施設等において、鍵の受渡しに伴う負担を軽減するスマートロック等の活用についての見解はどうか

答 現在は、利用日に鍵を受け取り、利用後に返却してもらう運用としているが、利用者の移動負担に加え、管理側にも一定の業務が生じている。こうした課題を解消する手段として、スマートロックや電子キーボックスなどの活用は、利用者の負担軽減と管理業務の効率化に資する有効な手段の一つと考えている。

一方、施設ごとに建物の構造や利用実態、管理体制が異なる



デジタル技術による課題解消と
ゼロカーボンの更なる推進

宮下 真悟 議員



ため、災害・緊急時の対応や、機器の設置、維持管理に係る費用などの検証が必要である。

こうした課題を整理し、費用対効果を見極めながら、導入に向けた検討を進めていく。

問 公共施設の駐車場スペースを活用し、ソーラーカーポートを導入することについての見解はどうか

答 ソーラーカーポートは、公共施設の脱炭素化を進める上で、有効な選択肢の一つと認識しているが、導入に当たっては、施設に応じた様々な観点から総合的に検討し、自己所有やPPA^{*}、リースなどの方式から最適な手法の選択が必要である。

国の支援制度や導入手引き、他自治体の先行事例も参考にしながら、公共施設の更新や改修の機会を捉え、駐車場スペースでの活用可能性について、施設ごとの条件を踏まえて調査研究していく。

※PPA（Power Purchase Agreement）とは、自治体・企業が保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を自治体・企業が施設で使う仕組み（環境省ウェブサイトより引用）

問

現在、国では、最新の21価結合型ワクチンの定期接種

答

制度のはざまにある66歳以上の高齢者へ、市独自助成制度を創設する考えは

高齢者肺炎球菌ワクチン 65歳の定期接種状況		
年度	人数	接種率
R5	289人	37.0%
R6	320人	40.8%
R7	196人	25.4%

問 65歳の接種状況を比較すると、左表のとおりである。年度による変動もあることから、現時点でその影響を明確に示すことは難しい状況である。

答 高齢者肺炎球菌ワクチンの定期接種が「満65歳の1年間に限定されたことによる接種率への影響はどのようなか



命と健康に寄り添い、元気に暮らせる大府であるために

国本 礼子 議員



▲藤田医科大学病院の母乳バンクで冷凍保存されているドナーミルク

問 子育て世代に必要な情報を適切な時期に届けるという観点から、有効な周知方法の一つであるため、今後、配信内容や対象時期、他の子育て情報との整理も含め、活用について検討していく。

答 子育て世代に必要な情報を適切な時期に届けるという観点から、有効な周知方法の一つであるため、今後、配信内容や対象時期、他の子育て情報との整理も含め、活用について検討していく。

問 母子手帳アプリ「おぶいく」を活用し、母乳バンクのドナー登録への協力を呼び掛ける情報発信を行うてはどうか

答 65歳の接種状況を比較すると、左表のとおりである。年度による変動もあることから、現時点でその影響を明確に示すことは難しい状況である。

における取扱いについて、過去に肺炎球菌ワクチンを接種した人への対応も含め、審議会等において検討が行われていると認識している。今後示される国の制度内容や見解を十分注視し、適切に対応していく。

※母乳バンクとは、寄附された母乳を安全に処理・保管し、自らの母親から母乳を得られない早産児や極低出生体重児（体重1,500g未満で生まれた赤ちゃん）へ提供する仕組み



大府市の更なる
市民サービス向上を目指して
稲葉 裕加里 議員



問 心理的安全性[※]の確保を組織づくりの基盤として正式に位置付け、市の方針として公に示してはどうか

答 個別の方針として改めて掲げるといっても、職場風土の醸成や人材育成、コミュニケーションの活性化といった既存の取組の中で実践を重ねていくことが重要であると考えます。

今後も、職員が安心して意見を述べ、能力を十分に発揮できる職場環境づくりに努めていく。



問 市が保有する情報を適切に保護し、「大府市生成AIサービス」を安全に利用するための環境構築はどのような

答 「おおぶAI」を、セキュリティが確保された専用のクラウド環境上に構築した。その運用に当たっては、「大府市生成AI利用ガイドライン」に沿って、個人情報を入力禁止とするなど、安全性の確保に努めていく。

問 指定管理施設を含む公共施設について、休館日や運営時間の在り方を検討する考えは

答 施設の利用状況や人員体制などを踏まえ、施設の在り方をゼロベースで検証している。

来年4月に指定管理者の更新を迎える石ヶ瀬会館及び愛三文化会館は、休館日を毎週月曜日とすること等を検討している。

今後も、施設ごとの利用状況や運営体制を丁寧に検証し、市民サービスを確保しながら、適切な在り方を見直していく。

※心理的安全性とは、効果的なチームをつくるために重要な要素の一つ。職場で疑問や意見、ミスなどを伝えても、非難や不利益を受ける不安が少なく、安心して発言・行動できる状態のこと。



本市のこども・若者の
こころとからだを守るために
時安 利栄 議員



問 自死対策の取組について、現在の状況をどう評価し、今後、どのような方針で進めていくのか

答 全庁的な情報共有と連携強化を目的として「いのちを支える自死対策連絡会議」を開催するとともに、関係機関が連携して、必要な支援につなぐことを重視して取り組んできた。さらに、NPO法人自殺対策支援センター「ライフリンク」と連携自治体事業協定を締結し、相談体制の強化を図っている。

今後も、必要な支援につなぐ体制の充実を図ることで、誰も自死に追い込まれることのない社会の実現を目指していく。

問 心の教室相談員がこれまで果たしてきた役割をどのように評価しているのか

答 心の教室相談員は、生徒にとっては学校内の身近な相談先であり、生徒の心の安心を

支え、学校全体の支援体制になく役割を担っていたと捉えている。

問 こどもが安心して悩みを相談できる最適な相談体制をどのように維持していくのか

答 こどもにとって相談しやすい相手が異なることを踏まえ、様々な職種の配置・拡充を図るとともに、電話やメールによる匿名での相談方法の周知等、全ての児童生徒が安心して相談できる体制整備に努めてきた。

今後も、児童生徒一人一人の状況に応じた柔軟な支援を行うとともに、学校がこどもたちにとって安心して相談できる居場所となるよう努めていく。



質問 外国籍住民の増加に伴う地域社会の変化と課題をどのように捉えているか



▲本市で行われたアジア競技大会聖火リレー

回答 各競技のトップ選手たちのパフォーマンスに触れる絶好の機会であり、児童生徒のスポーツに対する意欲を更に高める契機になると捉えている。

児童生徒が、アジア・アジアパラ競技大会を通してスポーツに親しむとともに、他者を理解し、地域や社会を支える意識を育むことが、大会のレガシーにつながると思われる。

質問 アジア・アジアパラ競技大会のレガシーをどのように学校教育で生かしていくのか



「健康都市おおぶ」の更なる共生社会を目指して

小山 昌子 議員



回答 外国籍住民の増加に伴い、地域社会においても多様な文化や言語を持つ人と接する機会が増えている。日本で生活する上で必要なルールや情報が十分に理解されずに生じるトラブルを未然に防ぐため、必要な情報をわかりやすく届けることが重要である。

また、若い世代や子育て世帯の増加を踏まえ、こどもたちへの教育支援の重要性が高まっていることから、学校や地域における受入れ、相互理解の促進が課題であると捉えている。

本市では、行政情報の多言語化や相談体制の充実、学校における日本語初期指導や就学支援、プレスフルなどに取り組むとともに、大府市国際交流協会や市内企業とも連携し、生活に必要なルールや情報の周知啓発、外国籍住民と地域住民が交流する機会の提供などを進めている。



回答 災害時には、避難所の開設・運営、プライバシーの確保など、様々な課題への対処が求められることから、自主防災組織や防災士、関係団体等と連携し、避難生活を想定した訓練を行うことが重要である。

被災者支援体制整備加速化事業は、避難所の環境や運営の質を高めることを目的としたものであり、今後は地域の防災力の更なる向上を図るため、この事業を活用した宿泊を伴う実践的な訓練の実施を検討していく。

質問 被災者支援体制整備加速化事業を活用し、実践的な訓練を行う考えはあるか



地域防災力の向上
こどもがスポーツで輝けるまちへ

竹田 隆憲 議員



質問 スポーツ施設を充実させ、市民の競技活動や大会、公式戦などに対応できる環境を整備する考えはあるか



回答 本市は、スポーツを気軽に親しむことができる環境づくりを推進している一方、市民からは芝のサッカー場を求める声が多く寄せられている。サッカーは幅広い世代が親しむことができ、地域の交流やにぎわいの創出にもつながる競技である。今後は、施設の利用ニーズ等を把握し、桜木町のゴルフ場跡地の公園内への整備を視野に入れ、サッカーを始めとする新たなスポーツ施設の実現に向けて検討していく。



市民起点で進化する市役所と
もったいい地域環境を目指して

飯尾 祐介 議員



問 協働の観点から、若者の視点を市政に生かす場として、「大府市若者会議」を発展的に再開することへの見解はどうか

答 若者会議という手法に限らず、若者が主体的にまちづくりや地域課題に関わることができるよう支援していく。

問 こども若者支援課にワンス・トップ窓口機能を付与し、「こどもどまん課」に改称することへの見解はどうか

答 現在の体制が適当であり、現時点において、ワンス・トップ窓口機能を付与し、課名を変更する考えはない。

問 手続や相談に同行することなどが安心して過ごせるよう、市役所にキッズスペースを設けることへの見解はどうか

答 現時点では市役所に専用スペースを設ける予定はない。



▲木のおもちゃを備えたキッズスペース(長野県木曽町役場)

問 放置竹林の整備に対する補助制度の創設について、見解はどうか

答 今年度、竹粉砕機の貸出事業を開始する予定であるほか、竹林整備講座を開催するため、まずは現在進めている取組の効果を見極めていく。

問 市職員の経験や視野を更に広げるため、市職員を民間企業へ中長期間派遣することへの見解はどうか

答 現段階では、職員を直接民間企業へ中長期間派遣する必要性は限定的だと考えている。

※大府市若者会議とは、2022年度に開始された、若者が本市への想いやアイデアを話し合い、その実現に向けた企画を作る取組。2026年度は開催していない。

9 月 定 例 会 の 審 議 結 果

結果の表示	◎全会一致で可決、同意、承認、採択	○賛成多数で可決等	▲賛成少数で否決等
	□ は、賛否が分かれた議案		

9月定例会（8月25日～10月6日）

番号	件 名	結果
議案	45 大府市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正について 市役所窓口での特定在留カード及び特定特別永住者証明書による印鑑登録証明書交付の申請を可能とするもの等	◎
	46 大府市認可地縁団体印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正について 引用条項の改正	◎
	47 大府市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について 市の住民基本台帳に記録されていない者を特定するための番号を付番し、管理する事務について、個人番号を利用できる事務に追加するもの等	◎
	48 大府市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について 満3歳以上限定小規模保育事業の創設に伴う規定の整備等	◎
	49 大府市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部改正について 満3歳以上限定小規模保育事業の創設に伴う規定の整備等	◎
	50 大府市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について 児童対象性暴力等の防止等のため、事業者へ児童等対象業務従事者に係る犯罪事実確認等の措置を義務付ける規定の追加	◎

番号		件 名	結果
議案	51	大府市自然体験学習施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について 施設の名称変更（「自然体験学習施設」→「環境学習センターニツ池セレクトナ」）等	◎
	52	大府市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正について 引用条項の改正	◎
	53	大府市産業立地促進条例の一部改正について 引用条項の改正	◎
	54	大府市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について 非常勤消防団員等の葬祭補償の定額部分の引上げ	◎
	55	令和8年度大府市一般会計補正予算（第3号）	◎
	56	令和8年度大府市一般会計補正予算（第4号）	◎
	57	令和8年度大府市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	◎
	58	令和8年度大府市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）	◎
	59	令和8年度大府市水道事業会計補正予算（第1号）	◎
	60	市道の路線認定について 市道4387号線（梶田町）	◎
	61	財産の取得について（小型動力ポンプ付積載車（吉田分団・共和分団）） 取得金額 29,994,960円 契約の相手方 萬茂防災株式会社	◎
	62	教育委員会委員の任命について 近藤由美子氏	◎
	63	損害賠償の額の決定について 損害賠償額 1,192,212円（バスの賃貸借契約の解除に係る損害賠償）	◎
	64	令和8年度大府市一般会計補正予算（第5号）	◎
	65	令和8年度大府市一般会計補正予算（第6号）	◎
認定	1	令和7年度大府市一般会計歳入歳出決算認定について	○
	2	令和7年度大府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	○
	3	令和7年度大府市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算認定について	○
	4	令和7年度大府市水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について	○
	5	令和7年度大府市下水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について	○
議員提出	1	大府市議会の議員の定数を定める条例の一部改正について 議員定数を「19人」から「18人」に改めるもの	▲
意見書	1	「新たな『定数改善計画』」の確実な実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める意見書	◎
その他	—	議員派遣について	◎
	—	閉会中における常任委員会の調査研究付託案件について	◎

賛成・反対が分かれた議案

（全会一致の議案は省略しています。）

会派名	親和クラブ										市民クラブ				公明党		無所属クラブ		共産
議員名	蟹江陸孝	本田雅志	稲葉裕加里	竹田隆憲	藤本宗久	太田和利	時安利栄	早川高光	酒井真二	鷹羽琴美	小山昌子	加茂康治	野北孝治	木下久子	柴崎智子	国本礼子	宮下真悟	飯尾祐介	久永和枝
番号																			
認定1	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
認定2	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
認定3	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
認定4	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
認定5	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議員提出1	×	×	×	×	×	×	×		×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×

○は賛成 ×は反対（議長は地方自治法の規定により、議決に加わることはできません。） 会派名のうち、「共産」は日本共産党です。

令和7年度決算認定に対する討論

9月議会最終日（10月6日）、令和7年度決算認定議案の採決に先立って、5会派から討論（賛成・反対の意見の表明）がありました。

賛成

親和クラブ

令和7年度決算は、物価高騰や記録的な猛暑により市民生活への負担が続く中、将来への備えを確保しながら、暮らしを支える施策を機動的に実施したものと評価する。

一般会計では、実質収支が14億6千万円余の黒字となった。市税徴収率は99・6%と県内38市で第1位を維持し、財政力指数の3か年平均も過去10年間で最も高い水準となった。経常収支比率の上昇には引き続き留意が必要だが、市債残高は減少し、実質公債費比率は0・4%と低い水準にある。基金残高は約132億6千万円を確保しつつ、財政調整基金を活用して市独自の物価高騰対策を迅速に進めたことを評価する。

「おおぶ地域クラブ」の始動やふれあいバスの路線新設、大府警察署（仮称）の建設に向けた取組など、幅広い事業が市民の安全、健康、学び、交流を支えた。今後も市民の声を的確に捉え、健全な財政運営のもとで「改善改革」を進め、更なる「健康都市おおぶ」の実現につなげることを期待し、賛成とする。

市民クラブ

一般会計決算の財政力指数など、各指標の数値はおおむね良好である。しかし、人件費・扶助費・公債費で構成される義務的経費が増加し、財政の柔軟性が失われつつある。

令和7年度も物価高騰が続ぎ、市民生活に大きな影響があった。そのような中でも、本市は常に市民目線に立ち、限られた財源を有効に活用し、最大の効果を生み出す工夫をしながら、市民生活を支えるための施策を着実に進めてきたと認める。

また、目の前の課題への対応だけでなく、将来を見据えた効果的・効率的な事業に取り組み、持続可能な大府市を目指す姿勢は、私たち市民クラブが目指す方向に沿っているものと判断した。

今後も、市民の声を大切にし、一人一人の幸せを更に高めるため、より効果的な市政運営となることを期待する。

そして、こどもから高齢者まで、誰もが「大府市に住んでよかった」と実感し、誇りを持てるまちとなることを願い、賛成とする。

公明党

令和7年度一般会計決算は、実質収支が14億6、483万8千円の黒字となり、財政力指数は1・19、実質公債費比率は0・4%で、財政の健全性が維持されていると評価する。

一方、経常収支比率は89・9%に上昇しており、物価高騰や人件費の増加、公共施設及びインフラの老朽化に伴う維持費の増加、社会保障関係経費の増加など財政需要の拡大を見据え、中長期的な視点を持った財政運営が重要である。

施策面では、給食費の負担軽減、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援、健康・福祉及び防災・減災の推進、地域の安全、デジタル化、脱炭素化など、公明党が重視する取組が幅広く実施されたことを確認したが、更にその効果や市民生活への影響をわかりやすく示し、決算審査で明らかにした課題を次の政策形成に生かすことも期待する。

健全な財政基盤を維持しながら市民の命と暮らしを守り、誰一人取り残されない地域社会につながる施策を実施したものと評価し、賛成する。

無所属クラブ

2025年度は、11回の補正予算を編成し、社会情勢や市民ニーズの変化に応じた機動的な政策展開が図られた。一方、その執行を担う職員を同様の速度で確保することは困難であることから、市民サービスの維持に加え、新たな課題への対応や業務改善、政策立案に取り組み余力まで把握し、行政需要に応じた人的資源を適正に配分する必要がある。

協働企画提案事業では、採択事業の実績だけでは、交付額の減額が事業計画や団体負担、さらには申請そのものの可否判断に与えた影響まで把握することは困難である。市民活動団体から広く実情を聴取し、制度運営に反映することが重要である。

市制55周年記念事業では、個々の成果を評価する一方、55周年における39ある周年事業の数的規模や、投入した財源・人的資源に見合う効果を検証し、将来の周年事業の要否や規模、行政資源の配分の判断材料とする必要がある。

以上を踏まえ、事務事業の執行は総じて適正と認め、賛成する。

令和7年度決算認定に 対する討論

反 対

日本共産党

物価高騰に追い付かない、上がらない年金や賃金により、市民生活はより厳しくなっている中、下水道料金は20%増に向けて令和7年4月に第2段階の引上げが行われた。さらに、市が購入している県営水道料金等の値上げを理由に、市の水道料金を約6%値上げすることを決めた。県の水道事業会計決算は黒字であったが、市として値下げについての検討がされなかった。

国民健康保険税は所得割を1・1ポイント引き上げ12%へ、均等割は4、600円増だった。国民健康保険は社会保障であり、負担を抑えた税額にすべきである。市民に税の負担を課す一方、報酬や期末手当は、議員で年額11万8千円、市長で19万1千円引き上げた。

医療機関に1台約3億3千万円の手術支援ロボットの導入支援を行うのであれば、病気の予防策を重視した不足する保健師の増員や、収入の1割を超える国民健康保険税の負担軽減など、税金の優先順位が違つという理由で反対する。

決算認定議案審査

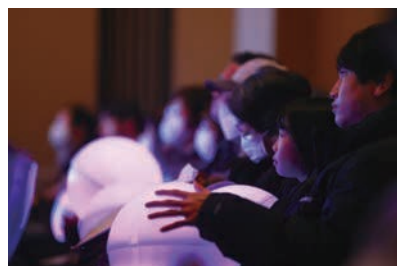
総務委員会

令和7年度大府市一般会計歳入歳出 決算認定について

問 「おおぶ・やさしい音楽会」及び「やさしい音楽を届けるアウトリーチコンサート」について、市制55周年後も平時の施策として継続する必要性をどのように整理したか

答 「おおぶ・やさしい音楽会」は、インクルーシブな取組によって得られた成果を今後の事業に生かすこととした。

「やさしい音楽を届けるアウトリーチコンサート」は、文化施策として継続し、「音楽のまち・バイオリンの里おおぶ」の取組として定着を図ることとした。



▲SOUND HUG(サウンド ハグ)
*

問 大府警察署（仮称）の早期建設に向けた要望活動の実施において、既存の交番等の再配置についても要望したのか

答 本市の地域事情を踏まえ、既存の交番等の再配置についても検討してもらったよう要望した。



問 スケートパークおおぶの利用者数811人の市内外の割合と、利用者の安全確保のための取組はどうであったか

答 市内利用者が324人で約40%、市外利用者が487人で約60%であった。安全確保のため、管理人を常駐させるとともに、中学生以下の利用者にはヘルメット着用、小学生以下の利用者には保護者同伴を求めなどの対策を行った。

問 職員数が定員管理計画の計画値を上回ったことによる、令和7年度の人件費への影響をどのように評価したか

答 計画値を上回った51人は、行政需要の増大等を見込み、市民サービスの充実を図るために確保したものであるため、適切な支出であったと考えている。

問 市民活動団体に職員を派遣する「市民活動インターンシップ」の対象者や内容と、実施の効果はどのようなか

答 新規採用職員を対象に、希望に応じて四つの市民活動団体の活動を体験し、地域課題や団体の活動について学ぶことで、市民の声を行政運営に生かせる職員の育成につながった。

問 市民活動センターへの総合ボランティアセンターの機能統合に向けて、両センターの業務をどのように整理したか

答 利用者の利便性向上と円滑な移行を念頭に置き、団体登録、相談、連携・マッチングなどの業務について、市社会福祉協議会や指定管理者と協議・調整を重ね、整理した。

問 宅配ボックス購入費補助金が予算額に近い執行状況となっていたが、対応に問題はなかったのか

*SOUND HUG(サウンド ハグ)とは、音楽を光と振動にリアルタイムに変換する装置。抱きかかえることで、音楽を「視覚」と「触覚」で感じて楽しむことができる。



▲「働く女性の異業種交流会」の様子

答 予算残高が補助上限額の1万5千円を下回ったため、3月中旬に申請受付を中止したが、翌年度の申請を案内することで、トラブルなく対応した。

厚生文教委員会

令和7年度大府市一般会計歳入歳出決算認定について

問 働く女性のための異業種交流会を開催した結果、どのような効果があったか

答 様々な立場の女性が参加し、活発な意見交換が行われたことから、女性の活躍に向けた理解や意識の向上につながったと考えている。

問 保健師等による「こんにちは赤ちゃん訪問」により、母子の異変に気づき、支援につながった事例はあったか

答 母親の精神状態や子の発育・発達等を把握する中で、医療機関への紹介や継続支援につながった事例があった。

問 避難行動要支援者名簿は、どのように更新されたのか

答 住民基本台帳や要介護状態区分等の対象要件を確認し、対象者の追加や削除を行った上で、年1回の定期更新をし、災害時に活用できるよう関係部署と共有した。

問 第7期障がい福祉計画に課題として掲げた、生活介護等の日中活動系サービス終了後の夕方の時間帯への対応について、具体的な検討はしたか

答 令和8年度から「6時間以上」の報酬区分を新設するなど、日中一時支援事業所が柔軟に受け入れやすい環境を整え、事業所の確保や運営基盤の強化を図り、夕方の時間帯への対応につながるよう検討した。

問 生徒数の増加が見込まれる大府北中学校について、施設面でのどのような対策を行ったか

答 将来推計から31学級以上となることを見込み、学校生活に支障が生じないよう、トイレの改修や多目的トイレの整備、プール跡地を活用したバスケットコート整備に係る設計を実施した。

▲大府北中学校
(提供：大府市、CC BY-NC-SA 4.0)

問 「きらきらチャレンジ」の参加率向上に向け、学校、家庭、地域ではどのような取組を行ったか

答 学校ではチャレンジカードやシールの配布、家庭では保護者との取組事項の共有に加え、「きらきらチャレンジウィーク」の設定、地域ではあいさつ運動などを行った。

令和7年度大府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

問 40歳未満向け健康診査について、受診機会を拡充するため、市内医療機関で受診できる個別健康診査方式の導入を検討したか

答 個別健康診査の導入を検討した経緯はなく、生活習慣病予防への早期介入を最小限の経費で実施する観点により、事業開始当初から集団健康診査方式としている。

建設産業委員会

令和7年度大府市一般会計歳入歳出決算認定について

問 ウエルネスバレーブランド認定制度について、2件のブランド認定を行ったが、認定によりどのような効果があったか

答 関係機関におけるアドバイスや実証が、商品価値をより向上させている。また、市公式ウェブサイトで掲載や、市役所内の市民健康ロビー等での展示などが、商品の認知度を高める一助となった。



▲ニツ池公園エントランス広場
(横根町)

問 公園の入り口としてのわかりやすさと魅力が高まるとともに、アスナ口の植栽により、水源地とニツ池とのつながりが感じられる象徴的な空間として、屋外の環境学習の場となり、利用促進につながるものと考えている。

答 雨水の一時貯留や浸透により、河川や水路への流入を抑制し、大雨時の浸水被害の軽減に寄与した。

問 本市が民間事業者・市民と協力して行う雨水流出抑制の取組は、大雨時における河川や水路への急激な流入を緩やかにする上で、どのような効果を発揮したか

答 電気機器や石油ストーブ等の適切な使用方法の指導とともに、住宅用火災警報器の設置・交換を促した。要望があった場合は、再訪問し、取付方法や点検方法について説明した。



▲住宅用火災警報器

問 ひとり暮らしの高齢者宅防火診断について、診断後、どのような対応をしたか

問 農福連携の推進について、マッチングの内容はどのようなものがあったか

答 繁忙期に人手を必要とする施設野菜の農業者と市内の福祉施設をつなぎ、福祉施設の利用者の作業体験後に、継続して作業を行うかを双方で判断してもらう取組を行った。

問 プレミアム付商品券事業に対する事業者及び市民からの声にはどのようなものがあったか

答 事業者からは、地域の消費喚起に有意義であったとの声があり、市民からは、日常の買物や地域の店舗で利用できて助かったなどの声があった。また、双方から、デジタル化を望む声も複数寄せられた。

令和7年度大府市水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について

問 水道事業の近隣市町との料金・会計システムの共同化について、どの程度の経費削減につながったか

答 システムの単独利用と比較して、共同利用により、令和7年10月からの半年間の契約期間において、約120万円の経費削減につながった。

そのほかの議案審査

総務委員会

大府市自然体験学習施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

問 学習室のオープンスペースへの改修について、複数の利用者や団体が同時に利用する際のルールをどのように定めるのか

答 スペースを長時間にわたり独占するような利用は控えてもらうこととし、休憩や簡単な打合せについては、ほかの利用者の迷惑にならない範囲で利用を認めていきたいと考えている。

問 これまでも校外学習の受入れを行ってきたが、リニューアル後も受け入れるのか

答 リニューアル後も、校外学習の場としての利用を見込んでいます。

令和8年度大府市一般会計補正予算(第4号)

問 吉田多目的グラウンドの不動産鑑定評価について、実施の経緯はどのようなか

答 吉田多目的グラウンドの売却の申出があり、適正価格を把握する必要があるためである。



▲吉田多目的グラウンド
(提供：大府市、CC BY-NC-SA 4.0)

厚生文教委員会

令和8年度大府市一般会計補正予算 (第3号)

問 大府中学校の教室改修工事の安全対策はどのようなか

答 工事については、学校と調整し、安全を確保するとともに、授業や学校運営への影響がないよう進める。
また、騒音を伴う作業などは、可能な限り土日を実施する。



▲大府中学校
(提供：大府市、CC BY-NC-SA 4.0)

問 令和8年10月から始まる国民年金保険料の育児免除制度には、届出が必要だが、対象者への周知はどのように行うのか

答 厚生労働省から市町村に対して、母子健康手帳配布時のチラシの配布

等が依頼されている。そのほか、保険医療課での出生時の手続や、出産育児一時金にかかる通知等とあわせて周知することを考えている。

令和8年度大府市一般会計補正予算 (第4号)

問 中学校の楽器の計画的な更新について、どのように考えているか

答 金管楽器は20年から30年間の使用を目安としているが、使用頻度やメンテナンスによって、使える期間が変わる。まずは、生徒が楽器を大切に扱い、長く使ってもらえるよう、学校に伝えていく。



令和8年度大府市国民健康保険事業 特別会計補正予算(第1号)

問 将来の資金不足に備え、国民健康保険財政調整基金に約1億円を積み立てることだが、今後どのような活用を想定しているか

答 保険税率の県内統一に向け、税率改定を実施してきたが、標準税率との差が縮まらない現状もある中、被保険者の急激な負担増加を避けるため、有効に活用していく。

建設産業委員会

令和8年度大府市一般会計補正予算 (第4号)

問 「おおぶっ子入学・新生活応援米」配付事業について、令和9年度に小学校、中学校、高等学校等へ入学する子どもがいる世帯のうち、令和9年1月1日時点で本市に住民登録のある世帯が対象とのことだが、基準日以降に本市へ転入した世帯についてはどのように対応するのか



答 事業の実施方法を工夫し、基準日以降に本市へ転入した世帯についても、可能な限り配布する。

財産の取得について

問 吉田及び共和分団で更新する小型動力ポンプ付積載車のシャッターは、今回も地域の特色を生かしたデザインを採用する予定か

答 今回も、各消防団が管轄する地域の小学校に依頼し、シャッターのデザイン案を募集する。



▲小型動力ポンプ付積載車

問 冠水や大規模災害などでの活動も想定される中で、4輪駆動ではなく、2輪駆動とした理由は何か

答 積載する資機材は、全て持ち運びが可能な仕様となっている。車両の駆動方式による活動への影響は少ないと考えているため、2輪駆動を選択した。

委員会活動報告

総務委員会

8月10日、愛知県豊田市を視察した。

WE LOVEとよた条例について

(愛知県豊田市)

豊田市では、2008年の世界金融危機で法人市民税収入が9割以上減少した。これを受け、地域経済の活性化を目指して、「とよた元気プロジェクト」が始動し、「WE LOVEとよた」という合言葉が生まれた。取組を推進するため、2017年3月に「WE LOVEとよた条例」を制定した。合言葉は地域愛の醸成など、まちづくり全体へと取組を広げるために活用されている。市民に広がった合言葉をまちづくり全体の理念として位置付け、市民活動を後押しするために条例化したことが目的ではなく、市民間の共感を図り、理念や合言葉を実際の地域活動や市民の行動につなげていくことが重要である。特に、「WE LOVEとよた」というわかりやすい合言葉を市民と共有することで、市民が自ら考え、行動するきっかけ

とした点は、本市においても参考になる。

厚生文教委員会

令和8年度のテーマである「こどもの身体からだづくりについて」、2団体と情報交換会を行った。

ハッピースポーツ代表

渡部和華羽氏との情報交換会

(8月20日)

オランダ体育は、全員が同じ運動をするのではなく、こども自身が活動を選び、一人一人の能力や興味に応じてルールや用具、難易度等を工夫し、楽しく主体的に身体を動かすことを大切にしている取組である。

運動が苦手なこどもや普段あまり身体を動かさないこどもにも、「やってみよう」「楽しい」と感じてもらえる環境づくりの重要性を実感した。今後は、学校の体育だけでなく、休み時間や放課後、休日、地域での活動など、日常生活の中で自然と身体を動かす機会を増やし、こどもの身体活動時間の増加につながる取組について、更に調査研究を進めていく。

至学館大学教授 浅野幹也氏との

情報交換会(9月25日)

こどもの身体づくりには、体力や競技力の向上だけでなく、幼少期から遊びや日常生活の中で多様な基本動作を経験し、身体を動かす楽しさを知ることが大切である。また、運動が苦手な子も「できた」「楽しい」と感じられる環境づくりの重要性を再認識した。

家庭、学校、地域等が連携し、誰もが楽しみながら身体を動かす、将来の運動習慣につなげられるよう、身近な活動機会の充実や環境づくりについて調査研究していく。

建設産業委員会

あいち知多農業協同組合との

情報交換会(8月10日)

令和8年度のテーマである「未来につながるOBUの農業について」、本市の農業の現状を把握するため、あいち知多農業協同組合と情報交換会を行った。

担い手不足について、新規就農希望者への研修や相談体制の強化が必要と感じた。また、夏場の高温対策や、中東情勢の影響による肥料や資材の価格高騰について、引き続き、何らかの対応が必要と考える。

政務活動報告(会派視察)

親和クラブ

7月6日から8日まで、山口県宇部市、広島県東広島市及び山口県周南市を視察した。

常盤通りのウォークアブル化

(ときわTerrace)について

(山口県宇部市)

宇部市では、人口減少や中心市街地の空洞化で商業機能やにぎわいが低下する中、国道190号「常盤通り」を歩行者中心の空間へ再編する「ときわTerrace」を推進している。歩道・副道・植栽帯を一体的に活用し、ベンチや芝生広場などを設け、「ほこみち」制度により、オープンカフェやマルシェなど民間活動ができる環境を整えている。

市民や事業者、大学など各主体が協議を重ね、整備と運営を進める点が参考になった。本市も、駅周辺や公園、公共施設を多様な主体が活用しやすい環境とし、交流やにぎわいの創出につなげることが重要である。

東広島市公園整備アクションプラン

について(広島県東広島市)

東広島市では、人口増加に伴い公園数も増える中、施設の老朽化やニーズの多様化、災害への備えに対応するため、公園整備アクションプランを策定した。公園の規模、配置、利用圏域等を分析し、更新・再編等の優先順位を定めている。大屋根広場は、市民意見を反映した全天候型広場とし、DB方式で民間の技術力を活用している。

データに基づく優先順位付け、市民参加、民間活力の導入に加え、公園を健康・交流・防災の拠点として活用し、駅前まちづくりと一体的に進める取組は、今後の本市のまちづくりを考える上で参考となった。

平和事業について（山口県周南市）

大津島には、人間魚雷「回天」の搭乗員の遺書や遺品を展示する回天記念館や、回天運搬用トンネル、訓練所が残る。回天は、人が操縦して敵艦に体当たりする特攻兵器で、脱出装置はなかった。若者が命を犠牲にして出撃した事実から、戦争の悲惨さと平和の尊さを実感した。多くの人がこの島を訪れ、平和の尊さを伝えることが重要である。

委員会活動報告及び会派視察報告の詳細は、市議会のウェブサイトに掲載しています。

徳山駅前賑わい交流施設を中心としたまちづくりについて

（山口県周南市）

周南市は、図書館を核に、書店・カフェ、交流・行政機能を備えた賑わい交流施設を整備した。図書館は徳山駅に直結し、年中無休である。民間のノウハウを生かし、年間来館者数は計画を上回る200万人に達した。指定管理者や商工会議所、JR西日本、大学などの連携会議で、市民イベントも生まれている。

図書館を核とした複合施設と駅周辺の公共空間、民間施設との連携により、人が集い、滞在し、回遊する仕組みづくりが大変参考になった。本市でも、にぎわいの創出や交流人口の拡大につながる駅前のまちづくりを進めることが重要である。



▲親和クラブ
（周南市立徳山駅前図書館）

親和クラブ・公明党合同

7月8日から10日まで、岩手県遠野市、紫波町及び宮城県東松島市を2会派合同で視察した。

遠野市歴史文化基本構想、文化資源の経済化及び文化継承について

（岩手県遠野市）

遠野市では、市内の膨大な文化的資産について、「遠野物語」を核に、保存と活用を両立している。独自の「遠野遺産認定制度」や観光客を伝統芸能の担い手として巻き込む仕組み、使い道を地域で柔軟に決定できる「地区まちづくり一括交付型モデル事業補助金」制度を確立した。重要文化財の補修にデジタル技術を融合し、これらを体感できる博物館を郷土学習の拠点として最大限活用している。



▲親和クラブ・公明党
（南部曲り家 旧千葉家）

親和クラブの所感

「遠野遺産認定制度」は、市民協働の好事例である。本市も伝統文化の保存・継承と発信を強化し、観光、教育、地域経済と連携した持続可能な取組へ発展させるべきである。

公明党の所感

「遠野遺産認定制度」は、地域の結束や活性化に直結する。デジタル

による市外人材や観光客の巻き込み、使途を地域が柔軟に決定できる補助金制度は、本市の文化継承に大きな示唆となる。

デマンド型乗合バス「しわまる号」について（岩手県紫波町）



▲親和クラブ・公明党
（岩手県紫波町）

紫波町では、路線バス撤退に伴い、予約制の乗合バス「しわまる号」を運行している。AI配車システムを導入し、最適なルートをリアルタイムで指示している。既存事業者とのすみ分けを図ることで官民の信頼を築き、多世代が利用できる移動インフラを確保している。

親和クラブの所感

事業者との調整とAIを組み合わせた、実践的な取組である。本市でも、AIを活用したデマンド交通を導入することで、交通空白地帯への対応や高齢者の外出支援等の充実につなげられる可能性がある。

公明党の所感

※DB方式とは、デザイン・ビルド方式の略で、施設の設計と施工を一括して同じ事業者又は事業者グループに発注する方式

本市はコンパクトで人口密度が高いため、Ａー配車のマッチング率を高めやすい地理的優位性がある。運行制御やウェブ予約を促す料金設定など「血の通った制度設計」が、持続可能な新しい地域交通網を構築する鍵となる。

デジタルメディア・コントロール チャレンジ(でめこん)について

(宮城県東松島市)

東松島市では、子どものメディア依存を防ぐため、主体的にデバイスを使いこなす「でめこん」を推進している。児童生徒が自ら利用目安を設定し、脳科学の視点からも納得して挑戦できる環境を整備している。アナログ学習と調和させ、地域全体で健やかな生活習慣を支えている。

親和クラブの所感

児童生徒が自ら考え行動し、利用制限ではなく、生活習慣と情報活用能力を育む点は参考になる。本市でも、児童生徒の利用実態を把握し、議論を開始すべきである。

公明党の所感

脳科学的知見を基に子どもが納得して挑戦する動機付けは、本市でも有効である。予防的啓発や、スマホに代わる読書や地域体験など、親子を温かく支える環境づくりが重要である。

市民クラブ

7月15日から17日まで、富山県小矢部市、氷見市及び黒部市を視察した。

災害に係る対応と防災の取組

について(富山県小矢部市)

小矢部市は、令和5年から3年連続で大規模な自然災害に見舞われ、避難所の開設・運営の遅れ、備蓄品の種類や備蓄方法、住民の公助への過度な依存、職員の配備体制等、多くの課題が浮き彫りとなった。これらの解決に向け、頻発化・甚大化する災害に迅速に対応できる体制を構築するため、地域防災計画の修正を行った。また、住民の防災意識を高めるため、防災訓練や啓発活動を通じて、「自助」と「共助」の重要性を繰り返し伝えていた。

本市でも、大規模災害時には、公助だけに頼ることは難しいことも直接伝え、防災を自分自身の問題として、市民一人一人が日頃から備えることの大切さを理解してもらう取組が重要であると感じた。

地域からの被推薦者に対して防災士資格の取得費用を全額補助する制度は、参考になった。「共助」のリーダーを増やす防災士育成の仕組みは、有事の際に地域との協力体制

を確かにするなど、減災に有効な取組である。



▲市民クラブ
(富山県小矢部市)

資源を活用したまちづくり「藤子不二雄(A)まんがワールド」について

(富山県氷見市)

氷見市は寒ブリや温泉などの豊かな観光資源があるものの、観光が冬季に偏るという課題があった。そこで、同市出身の漫画家・藤子不二雄(A)氏の作品キャラクターを地域資源として活用し、年間を通じて観光客を呼び込めるまちづくりを目指した。

本市では、来春オープンのおおぶ木のおもちゃ美術館(仮称)「など単体施設だけでなく、点在する資源を結び付けてまち全体で魅力を発信する視点が必要である。また、バイオリンを更に地域の魅力として発信し、子どもから高齢者まで幅広い世代がバイオリンに触れ、親しめる機会の充実も有効と感じた。

下水道バイオマスエネルギーの 利活用について(富山県黒部市)



▲市民クラブ
(下水道バイオマスエネルギー利活用施設)

黒部市は、従来のし尿処理施設の老朽化や、下水道汚泥の処分先の確保難、処分コストの増大等の課題を解決するため、汚泥を「廃棄物」ではなく「資源」と捉え、処理コスト削減、環境負荷低減、持続可能な汚泥の資源化を目指したバイオマスエネルギー利活用施設を整備した。

下水道を「処理する施設」から「資源を生み出す施設」へと転換した発想が印象的であった。特にコーヒー粕を一般家庭や飲料メーカーから回収し、バイオマス発電を行う取組は、事業者と市の双方にメリットがある。本市においても、地域資源からのエネルギー創出や脱炭素化を進める上では、再生された肥料の配布のような「目に見える市民還元」まで速やかに進むことを期待する。廃棄物と考えられていたものを資源として循環させる仕組みは、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成につながる重要な施策である。ゼロカーボンシティを宣言した本市としても、持続可能なまちづくりに欠かせない考え方である。



生成AI等に関する研修会を開催しました（8月6日）

第1部では、大府市CIO補佐官を講師に、生成AIの最新動向や、議事録・行政資料を用いた資料分析について学びました。生成AIはもっともらしい嘘をつくこともあるため、「指定した資料だけをもとに要約させること」や「最後は必ず人間が元の文書と照らし合わせて確認・責任を持つこと」の大切さを学びました。

第2部では、議会の情報セキュリティ（大切な情報や個人情報を守るルール）の内容を再確認しました。

便利な最新技術といえども、正確さと安全・安心が第一です。市民の皆さまの信頼に応えられるよう、ルールを守りながら賢く活用する研究を続けてまいります。

※本市議会では、生成AIを利用する際の注意事項を定めた「大府市議会生成AIガイドライン」を策定しています。



12月定例会のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
11/29	30	12/1	2	3	4	5
	本会議 (初日)					
6	7	8	9	10	11	12
	一般質問	一般質問	一般質問 (予備日)※		建設産業 委員会	
13	14	15	16	17	18	19
	厚生文教 委員会	総務委員会			本会議 (最終日)	

いずれも午前9時からです。 ※予備日は開催しないことがあります。

編集 後記

表紙を飾るのは、全世代型サロンでご飯を楽しく食べている子どもたち。「おいしいね！」という声が聞こえてきそうで、こちらも頬がゆるみます。

運営者の方からは、市の支援もあり、物価高の中でもおいしい食事を提供できてありがたいとのお話を伺いました。スタッフとしてお手伝いに来る子どもたちもいるそうです。

食べる人、作る人、手伝う人。それぞれの笑顔が重なり、訪れる人にも運営する人にも、温かな居場所になっていると感じました。

こうした地域のつながりを大切に、議会だよりも皆さんの暮らしと議会をつなぐ、親しみやすい1冊を目指してまいります。「どんなことを話し合っているのかな」と、気軽にページをめくっていただけるよう、これからも伝え方を工夫してまいります。

(I・Y)